

俳優 石上亮の大好きな宿題

『映画感想文』

第1回 つむじ風食堂の夜

2010年1月16日

小学校の夏休みの宿題は、ドリル、プリント、日記、自由研究、そして読書感想文。宿題はそっちのけで、サッカーしたりクワガタとったり川で遊んだりファミコンしたり…結局、夏休みギリギリで宿題に手を着け始める、というのがオレの夏休みでした。中でも最も嫌いで苦労したのが、読書感想文。文章を書くのが苦手で、あらすじを書いてあとがきから抜粋して、何とか完成させてました。そう、青島小学校に通う石上少年は、文集「わかしだ」とは、無縁の男の子でした。時が流れ大人になった石上少年は、三船敏郎とステイブ・マックイーンに憧れて、俳優を目指して上京しました。そして、ひょんなことから20年ぶりに感想文を書くことになりました。今度は読書じゃなく映画。宿題『映画感想文』。もう夏休みは無いので、のんびり書いてこうかと思えます。

藤枝駅北口方面から瀬戸川に架かる勝草橋を目指した手前にある「マルナカそば店」。静岡県藤枝市で生まれ育ったオレにとって、忘れられないラーメン屋です。東京に住んでる今でも、年に1回は食べに行きます。行く時はだいたい父親と一緒に。父は決まってマルナカの冷やと熱を両方頼みます。オレはどちらか1杯しか頼みません。未だに父の注文の極意は分かりませんが、両方注文するのは通の食べ方らしいです。

映画『つむじ風食堂の夜』の主人公・八嶋智人さん扮する「私」が、子供の頃に父親に連れてこられた喫茶店。父親が決まって注文するのが「エスプレッソ」。大人になった「私」が久々に訪れた喫茶店で注文したのは、「エスプレッソ」。父親の思い出が蘇る喫茶店は、間違いなく「私」にとっての故郷。そんなノスタルジック溢れる描写に、「マルナカそば店」を思い出さずにはいられませんでした。『つむじ風食堂の夜』に漂う懐かしい雰囲気。その象徴とも言うべき場所が、タイトルにもある「つむじ風食堂」。映画の出だしから物語の舞台となる「つむじ風食堂」は、常連客でいつも賑わっています。そこに「私」が訪れるところから物語が始まるのですが、その常連客を演じるのが下條アトムさん、BoBA こと田中要次さんら個性派の方々。映画を観る前は、主演が八嶋智人さんと知り、多くのドラマで名脇役として出まくってくる方なので、主演と聞いてもピンと来なかったのですが、脇を固めるのが個性派だらけだったので、そんな不安は消し飛びました。ドラマ「HERO」でお馴染み BoBA さんの「あるよ」もあります。篠原監督のカメオ出演もお見逃しなく。

『つむじ風食堂の夜』は「私」が過去と向き合って今を確かめ、さあ行こうかってお話です。観た後、懐かしい気持ちになりました。映画『マルナカそば店の朝』を作りたい、そんな気分です。ああそうそう、マルナカは、朝から行列が出来て午前中には閉店しちゃう「朝ラーメン」ですよ。